暮らしのぞき箱

季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第六九号〜

霜降　十月二十三日

# 宇治橋渡始式

いよいよ内宮の宇治橋が新しくなります。

昨年七月の起工式から一年と三ヶ月、国内最大級の純木造の橋が完成しました。思えば、目の前で進む架橋工事を見ようと、仮橋でたびたび足を止めたものです。敷板を金槌で叩くトントントンという小気味良い音や、橋の両側の高欄を落とす作業などふだんは目にすることのできない伝統の技を目の当たりにしました。内宮前だけでなく、日本にはたくさんの橋がありますが、二十年に一度架け替えられる宇治橋はやはり特別だと誇りに思います。

十一月三日の渡始式は朝の十時前から。まずは内宮の斎館を出た神職らの列が仮橋を渡り、摂社の饗土橋姫神社で神事を行います。その後、仮橋を渡り神域に戻ってから、渡女という老女を先頭にした渡り初めが行われます。つまり内宮側の東から西へと橋を渡ることになります。参拝の際は西から東へ渡りますから、逆の方向となるのです。不思議なことだと神宮司庁に尋ねましたが、古くからの慣例ということでその理由はわかりませんでした。渡女は旧神領民の中から、三世代の夫婦が揃うという長寿の一族の老女が選ばれます。太陽を背にして渡る渡女は、天照大神の名代のようにも思えます。

前回の渡始式には十五万人が訪れたといいますから、この日は一日中大賑わいでしょう。昼間だけではありません。実はこの夜は、ちょうど満月にあたっているのです。真新しい橋を照らす満月の明かり。月も寿ぐ渡始式です。

文　千種清美

伊勢内宮前
おかげ横丁